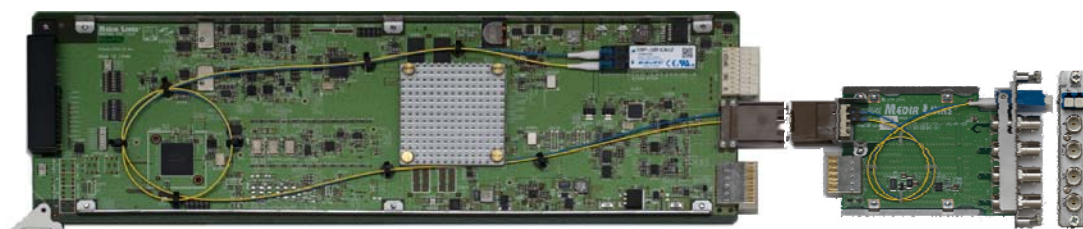


世界初 SMPTE2022-5/6 HBRAV 規格準拠モジュールを開発 ～ 非圧縮 HD 映像 IP 伝送の国際標準規格を先取り ～

株式会社メディアグローバルリンクス(代表取締役社長 林 英一、以下「メディアグローバルリンクス」)は、非圧縮 HD(High Definition、いわゆる「ハイビジョン」)映像を IP 伝送する国際標準として制定が見込まれる SMPTE2022-5/6 HBRAV(High Bit Rate Audio Video)規格に準拠した伝送モジュール MD8000-VIF-1Sch(2022)を世界で初めて開発しました。メディアグローバルリンクスは、9月10日からオランダのアムステルダムで開催される欧州最大の放送機器展であるIBC2010にて実機の展示とデモンストレーションを行います。

近年、放送事業における業務効率化のため、放送用 HD 映像を IP ネットワークで伝送することが増えていますが、現時点ではそのほとんどは映像信号を圧縮して伝送しています。今後、ネットワークの帯域が拡大すれば、非圧縮のまま伝送するニーズが高まると見込まれますが、非圧縮 HD 映像信号を IP ネットワークで伝送する際の規格が各装置メーカー間で異なると、相互接続に問題が発生する可能性があります。そのため、世界の大手通信事業者、通信装置メーカー、放送局、放送装置メーカーなどが規格の国際標準化作業を進めてきた結果、SMPTE2022-5/6 HBRAV として世界標準規格がまとまりつつあります。メディアグローバルリンクスは、この標準化チームの主要メンバーとして参画し、規格制定に貢献しています。

●MD8000-VIF-1Sch(2022)



フロントカード

リアカード

メディアグローバルリンクスが開発した伝送モジュール MD8000-VIF-1Sch(2022)は、同社のマルチメディア IP 伝送装置 MD8000 用ボードのひとつとして開発されました。MD8000 は、すでに国内の放送用ネットワークで採用されただけでなく、欧州の主要放送用ネットワークや本年 5 月に南アフリカで開催された FIFA ワールドカップなど、世界的スポーツイベントの映像伝送装置として採用された

実績があります。新たに国際標準になると見込まれる規格に準拠したモジュールの搭載が可能になったことにより、ユーザーの持つ他のネットワーク装置との接続性における将来の不安を取り除くことができ、一層の販売機会の拡大につながることが期待されています。

なお、本成果の一部は、独立行政法人情報通信研究機構(理事長:宮原 秀夫、以下「NICT」) による民間基盤技術研究促進制度に基づき、メディアグローバルリンクスがNICTから受託した委託研究開発課題「非圧縮HD映像のIP伝送国際標準方式の開発とIPv6実環境評価の研究開発」によって得られたものです。

- 本件についてのお問い合わせ先:
株式会社メディアグローバルリンクス
TEL 044-813-8965
ir@medialinks.co.jp